

AFS NEWS

ANNUAL REPORT 2014

2015 No.139



2014年の年間春組生とセメスター秋組生の帰国前セッション。成田にて。(2015年2月8日)

動画が見られます  www.youtube.com/AFSJPN

AFS JPN 2014

Hosting program-D-day at Narita

39 カ国209名+日本の大学生ボランティアで
AFSソング「Closer to you」を大合唱



帰国前の留学生より Messages from 2014 hosting students

日本での思い出や後輩留学生へのメッセージ
(制作：東京学生部 受入部)



“D-day”

プログラムを終えて本国に帰国する日=D-day。

1年間または半年間の思い出を胸に、新たな旅立ちのときを迎えます。



AFSの理念

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。

より公正で平和な世界の実現に必要な知識、能力、理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。

AFSの基本的価値観と立場

多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する、責任ある地球市民を育てようとAFSは考える。平和は常に、不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものだと認めるからである。

AFSはすべての個人すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いとは無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。

AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。

-1993年開催 AFS世界会議で採択

AFS Statement of Purpose

AFS is an international, voluntary, non-governmental, non-profit organization that provides intercultural learning opportunities to help people develop the knowledge, skills and understanding needed to create a more just and peaceful world.

The Core Values and Attributes of AFS

AFS enables people to act as responsible global citizens working for peace and understanding in a diverse world. It acknowledges that peace is a dynamic concept threatened by injustice, inequity and intolerance.

AFS seeks to affirm faith in the dignity and worth of every human being and of all nations and cultures. It encourages respect for human rights and fundamental freedoms without distinction as to race, sex, language, religion or social status.

AFS activities are based on our core values of dignity, respect for differences, harmony, sensitivity and tolerance.

-Adopted at the 1993 World Congress

AFS日本協会の事業

AFS日本協会の事業は、日本の高校生を海外に派遣する「派遣事業」と、海外の高校生を日本に受け入れる「受入事業」の2本柱で成り立っています。ともにメインプログラムは1学年間の交換留学プログラムで、参加生はホームステイをしながら地域社会の一員として生活することで、ホストファミリーや地域ボランティアは彼らをサポートしながら異文化を体験することで、文化・社会・人間への理解を深めます。また、異文化体験や国際交流のより広いニーズに応えるために、語学研修や文化

研修を軸とした1ヵ月程度の短期プログラムも企画・運営しています。

派遣事業は、1954年に8名の高校生を米国に派遣して以来、2014年までに19,392名を47か国に派遣し、受入事業は、1957年に9名の高校生を短期で受け入れて以来、2014年までに16,560名を64か国から受け入れてきました。2004年には多年にわたる国際交流への貢献が認められ、文部科学省大臣より「国際交流功労者文部科学省大臣表彰」を受けました。

contents

AFSジャパンビジョン2020	3	ご支援、ご協力をいただいた方々	7
2014年度の活動	4	AFS活動に参加する	13
参加者の声	5	AFS活動を支援する	14
2014年度 事業のご報告/決算要約	6		

2015年7月1日付けで、佐藤 貴実雄が事務局長に就任いたしました。



ご挨拶

公益財団法人 AFS日本協会の事務局長に就任して

公益財団法人 AFS日本協会 理事・事務局長 佐藤 貴実雄

本年7月1日に事務局長に就任して、早くも3か月が経過しようとしています。私はAFSのリターナーではありませんが、高校時代より、AFSの活動についてはある程度承知しておりました。素晴らしいミッションをもち、世界平和に貢献するというAFSの活動に、このたび、直接かつ具体的に関与できる機会をいただいたことに、心より感謝すると同時に、自分なりのこれまでの経験を十分に活用して、AFS日本協会の将来の更なる発展に少しでも貢献出来るように、身を引き締めて全力を尽くす所存でありますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本年8月には、約10か月程度をその準備に費やした『AFSジャパン・ビジョン2020』が正式に、AFS日本協会内で承認されました。これから2020年までのAFS日本協会の行動基準と目標が設定され、更に、これからの5か年におよぶ『中期経営計画』の策定準備が開始され、本年末までには、AFS日本協会がこれからの5年間でどのような活動を進めて、目標を達成していくのかを具体的に纏めることとなります。

そのなかで最も注目されるのが、『ICL（異文化学習）』です。これからのAFS日本協会は、このICLを最重要プログラムのひとつとして捉え、AFSの使命と理念に対する社会の理解と共感を高め、AFS体験に参加する若者や大人を増やし、ICLを通じて、より多くの地球市民の育成に貢献することを目標に活動することとなります。

AFSはボランティアの活動からなる組織です。そのなかで、事務局がどのような役割を担っていくべきかについては、一層の組織力強化に向けて、継続的に検討していきたいと思っております。事務局の担当業務をさらに効率よく遂行すると共に、ボランティアの皆様と更なる交流を深め、相互の信頼関係を深化させていくことも重要だと考えております。日々の業務の中で、ボランティアの皆さんとのコミュニケーションを通じて、組織の改革も視野に入れつつ、ボランティアの皆さんのご意見を十分理解して、これを日々の業務のなかで生かしていくことのできる事務局になっていきたいと思っております。

ぜひ、皆様方のご理解とご協力をいただきたく、宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

2015年8月30日

キーワード：ICL

アイシーエル

ICLはIntercultural Learning（異文化学習）の略称で、AFSの異文化交流をサポートする、教育的なアプローチです。

1984年に世界中の異文化先見者や創造的な思想家たちがモンテリオール近郊で集まり、世界に通用する教育的な目標と基準をAFSプログラムに策定しました（モンテリオール・ワークショップ提言）。このグループが策定した学習目標の中核は、現在のオリエンテーションの原形をつくるなど、長い時間をかけて改良され使用され続けてきました。

交換留学制度の開始から70年弱。海外留学が一般的なものとなった現在、AFSは改めてこの教育的アプローチに注目し、異文

化教育セオリーと実践の知識を増やしたり、異文化に対応する更なる技術や心構えをもったりするための研修プログラムを、国際本部主導で構築しました。

AFSネットワーク各国ではボランティアを対象とした研修の企画・実施をはじめ、学校、自治体、他団体、企業とのコラボレーション、複数国が参加するシンポジウムや学習会といった様々な取り組みが生まれています。

Intercultural
LINK

「AFSジャパン・ビジョン2020」が完成

2014年に活動開始から60周年を迎えた日本のAFS。今までの活動を振り返り、何が大事なのかを今一度確認し、その上で未来へ向かって新たに進むべき道を「みんなで考え、共有し、実行する」ために、2014年11月にプロジェクトチームが立ち上がりました。

熊平理事長のリーダーシップのもと、全国各地のボランティアと職員がメンバーとなり、定期的にミーティングを行い、そこで出された意見を広く関係者にフィードバックし、さらに議論を深めていくサイクルを繰り返しました。

ビジョンの検討にあたっては、以下の点を指針としながら議論を進めました。

～大切にすること～

1. 環境の変化や、現在のAFSおよびAFS日本協会の状況について、組織全体で共通の認識を確立する。
2. AFSジャパン2020策定において、AFSのミッションや品質基準を、最上位概念とする。
3. AFSジャパン2020・中経策定の過程で、以下の文化創造を目指す。
 - A) 問題指摘型→未来創造型の組織になる。
 - B) 討論型から、対話型（内省×共感）の組織になる。
 - C) タスク中心から、ミッション中心の組織になる。
 - D) 「学びの場」である組織になる。

～4つの方向性～

- 1) 組織のパワーアップ
- 2) 持続的な発展
- 3) イノベーション
- 4) ソーシャルインパクト

そして2015年8月6日の臨時理事会にて、「AFSジャパン・ビジョン2020」が承認されました。



プロジェクトチームのミーティング



AFS ジャパン・ビジョン 2020

AFS ジャパンは、日本での AFS 活動に関わるすべての人と地域コミュニティによって支えられ成り立っている組織であると同時に、そこに携わる私たち一人ひとりでもあります。私たちは、60年を超える「高校生の留学を中心とした異文化交流を通じて世界平和を希求する」という活動を誇りとし、これを支えてきたすべてのボランティアと支援者の貢献に感謝します。

世界 50 以上の国と地域に広がるボランティア組織である AFS は、互いの違いを尊重し、調和と寛容の精神を重んずるという基本理念のもと、多様性に満ちた世界において、平和と相互理解を推進するためにみずから動き、その責任を果たそうとする地球市民を育てることを**使命**としています。

この使命を実現するため、私たちは、交換留学プログラムに参加する若者およびその活動に関わるすべての人々に、様々な異文化と接し、これを理解し、学ぶ ICL (Intercultural Learning 異文化学習) の機会を提供します。

私たちは、AFS の国際ネットワーク全体で共有する**“AFS Vision For 2020”** を踏まえ、ここに 2020 年に向けた活動指針として以下の「AFS ジャパン・ビジョン 2020」を策定しました。

1. AFS の使命を貫きます

世界は今、AFS の使命の実現を必要としています。

私たちは、AFS の使命と理念に対する社会の理解と共感を高め、AFS 体験に参画する若者や大人を増やし、ICL を通じてより多くの地球市民の育成に貢献します。

2. ICL の担い手にふさわしい組織を実現します

私たちは、価値観形成途上の若者が異文化のはざままで重ねる経験を丁寧にサポートすることによって得られる「学び」を通じて、相互に高め合い、ICL の担い手にふさわしい組織を実現します。

3. 社会にインパクトを与えます

私たちは、世界の AFS の取り組みにも学びつつ、地域コミュニティと協働しながら現状の枠組みを超えた ICL プログラムを開発し、実践していきます。この活動を通じて、地球規模の重要な問題解決に挑戦する若者や、AFS の使命と理念の体現者を増やし、AFS コミュニティを拡大します。そして、私たちの社会に平和へ向けたインパクトを与えていきます。

今後はこのビジョンをもとに、中期経営計画を立てていくことになります。

2014年度の活動

2014年度の取り組みをピックアップしてご紹介します。

福島で年間受入を再開

「AFS こらんしょ！福島奨学金」を設立したことで、震災から2年半経って福島・会津若松市での受け入れが叶いましたが、これは3週間という短期プログラムだったため、長期プログラムの再開を望む動きがあり、2014年3月、震災後はじめての年間受入生としてガーナの高校生が福島・会津若松市にやってきました。ガーナにとって、野口英世博士を輩出した福島・会津地方は、特別な縁のある地域です。野口英世記念研究所などその名を冠した施設は現地の人々にも親しまれ、博士の名前は日本とガーナの友好関係の象徴ともなっています。今回の年間受入再開は、ガーナとの絆を深めると同時に復興に向けたシンボリックな活動として機運が高まり、様々な方からのご支援を受けて実現しました。

8月20日(水)

海外大学進学説明会

この説明会は、進路選択に際して AFS 体験をどのように生かしていくか、高校生が主体的に考える手助けをしようと発足した大学生の帰国生有志グループ「AFS-CONNECT」が企画したもので、高校生やその保護者など約 25 名が参加しました。アメリカやカナダの大学に進学したメンバーは、AFS 体験が進路決定にどう影響したか、出願のための具体的なステップ、現地の大学生活、奨学金など様々な内容を紹介しました。AFS 生の海外進学率は4～5%程度と比較的割合が小さかったこともあり、これまで十分な情報提供やネットワークがつくられてきませんでした、「こんな企画を待っていた！」という声もあり、今回の企画は有意義な機会になったのではないかと思います。

Facebook ページ「AFS-CONNECT」

11月22日(土)

AFS100周年・AFS日本60周年

前身団体の活動開始から100周年を迎えた2014年、パリをはじめ世界各地で記念行事が開催されましたが、日本ではハイアトリージェンシー東京にて、AFS100周年 AFS日本60周年記念祝典が開催されました。第一部式典は、高円宮妃久子殿下より心温まるおことばを賜り、キャロライン・ケネディ米国大使からはビデオメッセージを頂戴しました。続く鳥飼玖美子氏(YP10期'63-'64)の記念講演では、AFSは単なる留学団体ではなく異文化学習を推進する教育機関に生まれ変わっていくべきであるという内容をお話いただきました。第二部の記念レセプションでは、チャリティーラッフル(慈善福引)の当選者が発表され、約700名の来場者が再会や交流を楽しんだ後、受入生と帰国生によるAFSソング合唱で幕を閉じました。当日の様子や講演録、および11月にパリで開催された記念事業の様子はホームページよりご覧いただけます。

[Home](#) → [ご報告 AFS100周年・AFS日本60周年\(パナー\)](#)

津和野での受け入れ

AFSには支部設立には至っていないものの、地域ボランティアの協力を得て留学生の受け入れ活動を行っている地域として徳島や沖縄がありますが、この度新たに津和野(島根県)でも受け入れを開始しました。受け入れのための準備として、12月に事務局職員とお隣の山口支部ボランティアが津和野高校を訪問。2名の留学生を受け入れることが決まり、役場の協力でホストファミリーを探しました。年明けからホストファミリー説明会、LP(留学生担当のボランティア)基礎研修を行い、3月下旬からドイツとチリからの留学生の受け入れをスタートしました。



福島で年間受入を再開



海外大学進学説明会



AFS100周年・AFS日本60周年

参加者の声

各国に留学した派遣生、ホストファミリーの声や支部・地域活動の様子をご紹介します。



61期（'14-'15）アルゼンチン派遣生

現地の AFS トリップに出発する朝、荷物に日焼け止めが入っていることに気づいた。ホストマザーが勝手に僕のかばんにしのばせてくれていた。そのことに僕は、もう子供でもないのにとホストマザーに抗議した。でも、お母さんは、なんの義務もないのに日本人である僕を心から受け入れてくれ、異国での僕を自分の子と同様に気遣ってくれていたことに、後になって気づいたとき、とても後悔、反省した。



61期（'14-'15）チェコ派遣生

異なる文化を理解する。言葉自体は単純で誰もが理解できることですが、それを行動にすることはとても難しく、重みのある言葉だと思いました。それまで自分が正しいと思っていたことが覆される感覚に陥るのです。難しいことであるということを承知の上で異なる文化に触れ、異なる価値観・考え方を受け入れられる寛大な心を持ち、それを受け入れようと努力することが、異文化を理解する上で大切なことだと思いました。



2014年にドイツの生徒を受け入れたホストファミリー

彼女は何度もくじけそうになりながらも、ねばって、ねばって、日本の高校生になりきることで、家では本当の家族になるという希望をしっかりと叶えて帰国していったと思います。少なくとも私にとっては本当の娘になりました。日本とドイツの違いについてもよく話し合いました。私たちが当たり前に行っていることが誤解を招いたり、逆にこちらが普通に行っていることをこちらが誤解したりしているということがよくわかりました。



中国からの受入生（'14-'15）

日本の高校のクラブ活動も体験しました。僕が所属する書道部はホストスクールが創立記念行事として開催したアジア高校生フォーラムで大活躍しました。海外の友達に書道パフォーマンスを発表し、書道体験してもらいました。この日共通の文化を広げ、世界中の人たちに伝えようと思いました。



YOSHI基金奨学生、旭丘高校で意見交換会

米国留学中に射殺された服部剛丈君（AFS39 期生）のご両親と、米国の高校生に日本の社会を見て欲しいと設立された YOSHI 基金の奨学生、そして剛丈君の通っていた旭丘高校の在校生が参加する形で毎年続けられている意見交換会、2014 年は 12 月 16 日（火）に開催されました。今年のテーマは「安全な社会を作るには」。後半には名古屋米国領事館よりスティーブン・G・コバチーチ首席領事もご出席くださいました。



登美ヶ丘フェスタ

9月20日（土）、地域と教育機関・団体との連携を目指した「登美ヶ丘フェスタ」が、奈良市の東登美ヶ丘小学校および東登美ヶ丘幼稚園にて開催され、大阪東、大阪南、奈良支部の受入生がブース等で AFS を PR しました。当日は 1600 ～ 1900 名ほどの参加があったほか、AFS の名前と概要を掲載いただいたパンフレットが対象地域の全家庭（約 4000 家庭）にも配布され、広く名前と活動を知っていただく機会にできたのではないかと思います。

各種ニュースや体験談はホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。
支部活動レポート、留学体験談 受入生、ホストファミリー体験談

様々な分野で活躍する帰国生のインタビュー記事

[Home](#) → [イベント&ニュース](#)

[Home](#) → [ホストファミリー](#)

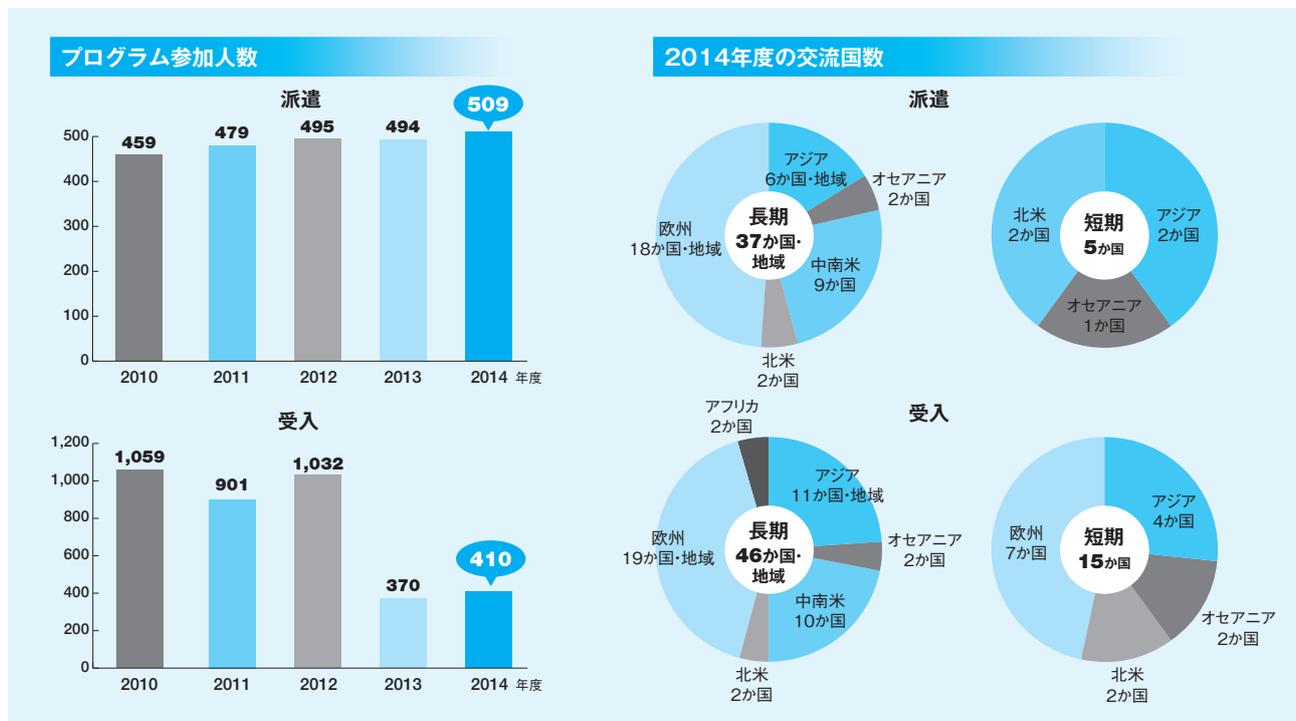
[Home](#) → [留学プログラム](#) → [高校生の年間留学](#) → [活躍する帰国生インタビュー](#)

2014年度 事業のご報告

2014年度は、派遣で509名、受入で410名、合計919名がプログラムに参加しました。

経年で見ると、2012年を境に受入プログラムの総数が落ちていますが、これは2012年まで600～700名規模の受託事業を行っていたためです。2014年は東日本大震災の影響等で落ち込んでいた年間受入の数が震災前の水準まで回復した年となりました。

2014年度にご寄附・ご支援をいただきました法人、個人の皆さま、AFSの受け入れにご協力いただきましたホストファミリー、ホストスクールの皆さまに心よりお礼を申し上げます。



2014年度 決算要約

公益財団法人 A F S 日本協会 (平成26年 4月 1日～平成27年 3月 31日)

1. 貸借対照表 (平成27年 3月 31日現在) (単位: 千円)

I. 資産の部		II. 負債の部	
1. 流動資産	715,317	1. 流動負債	376,385
2. 固定資産		2. 固定負債	51,978
(1)基本財産	459,605		
(2)特定資産	134,131		
(3)その他固定資産	50,489	負債合計	428,363
固定資産計	644,225		
		III. 正味財産の部	
		1. 指定正味財産合計	102,267
		(うち基本財産への充当額)	30,000
		(うち特定資産への充当額)	72,267
		2. 一般正味財産合計	828,911
		(うち基本財産への充当額)	429,605
		(うち特定資産への充当額)	9,885
		正味財産合計	931,178
資産合計	1,359,542	負債及び正味資産合計	1,359,542

3. 財産目録 (平成27年 3月 31日現在) (単位: 千円)

I. 流動資産		II. 流動負債	
現金預金	659,001		
その他の流動資産	56,316	(固定負債)	51,978
流動資産合計	715,317	負債合計	428,363
		正味財産	931,178
(固定資産)			
基本財産	459,605		
特定資産預金	134,131		
その他の固定資産	50,489		
固定資産合計	644,225		
資産合計	1,359,542	負債及び正味資産合計	1,359,542

(備考) 四捨五入のため、合計に合わないことがある。

2. 正味財産増減計算書 (平成26年 4月 1日～平成27年 3月 31日) (単位: 千円)

I. 一般正味財産増減の部		II. 指定正味財産増減の部	
1. 経常増減の部		1. 経常外費用	
1. 経常収益		①事業費	776,968
①基本財産運用益	2,686	②管理費	33,769
②特定資産運用益	28		
③受取入会金	3,255		
④受取会費	11,746		
⑤事業収益	719,235		
⑥受取補助金等	9,212		
⑦受取寄附金	51,181		
⑧その他収益	24,504		
計	821,847	計	810,737
		当期経常増減額	11,110
2. 経常外増減の部		2. 経常外費用	
1. 経常外収益	58,280		0
		経常外増減の部	58,280
		当期一般正味財産増減額	69,390
		一般正味財産期首残高	759,522
		一般正味財産期末残高	828,911
II. 指定正味財産増減の部		一般財産への振替	
受取寄付金	47,188		42,069
		当期指定正味財産増減額	5,119
		指定正味財産期首残高	97,148
		指定正味財産期末残高	102,267
III. 正味財産期末残高			931,178

過去5年分の決算要約や評議員等名簿はホームページ (www.afs.or.jp) でご覧いただけます。

[Home](#) → [AFSとは?](#) → [事業概要と組織](#)

AFS 活動に参加する

AFSの活動は、留学という制度を通してプログラムに関わる人々が互いに学び合う異文化学習（Intercultural learning/ICL）を推進するものです。様々な人々が、様々な方法で活動に参加し、お互いに学び合う機会を得ることから、「校舎のない学校」にも例えられます。

ホストファミリーになる

異なる文化や考え方の人と折り合いをつけながら仲良く暮らしていく「多文化共生」への注目度が高まっています。グローバル化が加速し、日本国内でも働いたり、学んだり、生活する中で様々な変化を感じ始めているのではないでしょうか。自分だけが世界とつながるのではなく、同じように変化の時代を生きている家族みんなで異文化体験ができる、それがホストファミリーです。日本各地で常時募集していますので、まずはお気軽にご相談ください。



募集状況やホストファミリー・留学生レポートはホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

[Home](#) → [ホストファミリー](#)

ボランティア活動に参加する

AFSの活動を支えているのは、世界4万人以上のボランティアです。現在、日本には全国各地に79の支部と4の学生部がありますが、メンバーは全員が報酬を受け取らないボランティアで、それぞれの知識と経験を生かしながら、地域コミュニティの中で派遣内定生や留学生を支えています。留学生生活の適応サポートやイベントの企画・運営などを通して、異文化・相互理解について一緒に学びませんか？



5年ぶりに復活した「みちのく国際サマーキャンプ」

支部のイベント情報や活動レポートはホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

[Home](#) → [ボランティア活動](#)

AFS
友の会

AFS 友の会

「AFS友の会」とは、AFSに関わるすべての人を対象にしたネットワークです。お互いの親睦を深めると同時に、AFS活動の継続・発展のために協力・支援することを目的としています。

「AFS友の会」事務局（AFS日本協会内） E-mail: tomo@afs.or.jp FAX: 03-3507-4300

活動報告

1月24日 新年会
「地球村への10のステップ
～グローバル教育は、なぜ次世代の教育か？」

講師：(株)グローバル教育研究所
理事長 渥美 郁子氏



5月27日 ネットワーキングの集い
「写真ライブに乾杯！」
講師：市川 恵美氏（YP12期 '65-'66 米国）



8月30日 チャリティコンサート
「夢を繋ぐ～たいせつなあなたへ～」
出演者：音楽自由人 秦 万里子氏



11月7日 ネットワーキングの集い
「ジョン・F・ケネディの平和主義をいま考える」
講師：寺地 五一氏（YP8期 '61-'62 米国）

新春会のお知らせ

2016年は、通例1月の新年会に代わり「新春会」として2月21日（日）の開催を予定しております。ゲストスピーカーはドキュメンタリー映画監督のジャン・ユンカーマン氏（元受入生 '69-'70 米国）です。

会場や申込み方法などは決定次第ホームページでお知らせします。友の会メールにご登録いただいている方にはメールでもお知らせしますので、ぜひご登録ください。



2015年新年会の様子

各活動のレポートはホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

[Home](#) → [イベント&ニュース](#) → [AFS友の会レポート](#)

*AFS友の会では、皆さまからの投稿ならびに、友の会と一緒に運営していたける有志を求めています。ご興味のある方は、AFS友の会事務局までご連絡ください

*友の会イベント情報をメール配信いたします。AFS友の会事務局までご氏名、AFSとの関係をご連絡ください

AFS 活動を支援する

10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしく申し上げます。

ご支援の種類

1 一般寄附金	AFS日本協会の事業を運営するための財源
2 ボランティア奨学金	経済的必要度の高い派遣生を支援
3 みちのく応援奨学金	東日本大震災被災地域の派遣生を支援
4 YOSHI基金	米国から来日する受入生を支援

5 NEXT50奨学金	途上国から来日する受入生を支援
6 AFSこらんしょ！福島奨学金	福島県に滞在する受入生を支援
7 AFSどさんご奨学金	北海道の派遣生・北海道への受入生を支援
8 AFSひろしま奨学金	広島県の派遣生・広島県への受入生を支援

各奨学金の詳細、奨学生レポートはホームページ（www.afs.or.jp）でご覧いただけます。

[Home](#) → [寄附](#) → [寄附先を選ぶ](#)

BANK 銀行から

一般寄附金

振込先：ゆうちょ銀行 〇一九支店 当座0610779
加入者名：AFS 寄付金口座

ボランティア奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 4422984
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 ボランティア奨学金

みちのく応援奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 2653018
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 みちのく応援奨学金

YOSHI 基金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 4423018
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 YOSHI 基金

NEXT50 奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 2273738
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 NEXT50 奨学金

AFS こらんしょ！福島奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 2750587
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会

AFS どさんご奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 2727968
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 AFS どさんご奨学金

AFS ひろしま奨学金

振込先：みずほ銀行新橋支店 普通預金口座 2727976
加入者名：公益財団法人 AFS 日本協会 AFS ひろしま奨学金

※銀行振込の場合は、お手数ですがお振込み後にお名前、ご連絡先をメール bokin@afs.or.jp またはFAX:03-3507-4300まで必ずお知らせください。お知らせがない場合は、免税証明書付の領収書をお届けすることはできませんのでご了承ください。

〒 郵便局から

振込先：口座番号 00170-5-610779
加入者名：AFS 寄付金口座

※通信欄にご支援いただける奨学金名をご記入ください。寄附先のご指定がない場合は、一般寄附金として処理させていただきますのでご了承ください

CARD クレジットカードで

クレジットカードでもご寄附いただけます。
ホームページの「ご寄附登録フォーム」よりお手続きをお願いします。

AFS日本協会は、「公益財団法人」ですので、税金の優遇措置を受けるための領収書を発行します。詳細はホームページ（www.afs.or.jp）をご覧ください。

[Home](#) → [寄附](#)

Pick Up | クレジットカード 毎月のご寄附

日本協会では2013年よりクレジットカードでのご寄附受付を開始していましたが、この度、登録により月々一定額を自動でご寄附いただける仕組みができました。

ホームページの「ご寄附登録フォーム」より、一口1,000円以上でご登録いただけます。本ページ上部でご紹介しておりますご支援の種類1～8の中からご寄附先を指定できますので、ぜひこの機会に継続的なご支援をご検討いただけますようお願い申し上げます。

お引落日：ご利用クレジットカード会社各社のお引落とし日となります。
領収書：1月～12月受領分の合計を記載して発行し、翌年1月に送付いたします。

※1回の場合は、当協会に入金があった段階で発行・送付いたします
詳細はホームページ（www.afs.or.jp）をご覧ください。

[Home](#) → [寄附](#)

ご寄附 / ご支援に関するお問い合わせ先

TEL : 03-6206-1911 Email : bokin@afs.or.jp



公益財団法人 AFS日本協会

<http://www.afs.or.jp/>

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 7F

TEL 03-6206-1911 FAX 03-3507-4300

E-mail info@afs.or.jp